

「やんばるの産業まつり」に参加して完了した国営事業をPR

「第33回やんばるの産業まつり」が、平成29年10月7日(土)、8日(日)の2日間、名護市の21世紀の森を会場として開催され、沖縄総合事務局(農村振興課、土地改良総合事務所)と関係土地改良区(羽地大川地区、伊是名地区、伊江地区)が共同でブースを出展しました。「やんばるの産業まつり」は沖縄本島北部の12市町村で構成する北部振興会の主催で、市町村、国(当方の他に北部国道事務所、那覇植物防疫事務所)、学校(国立沖縄工業高等専門学校、県立北部農林高等学校等)、JAおきなわ(北部地区営農振興センター)、企業によるブース展示と、特産品の販売、飲食店の出店、名護市友好都市「北海道滝川市」等の特別出店、ステージでの催しなどが、毎年盛大に繰り広げられています。沖縄総合事務局は、第12回に羽地大川農業水利事業所が出展して以来、参加しています。完了事業のブースではパネルや模型を展示するとともに、局と土地改良区の説明者が常駐して、地域で実施してきた国営事業の内容や効果、土地改良区の役割、沖縄における「多面的機能を活かした活性化事例」等についてPRしました。



産業まつりの来場者は、農家よりも児童や一般の人たちが圧倒的に多く、大規模な農業用水供給システムを構築した国営土地改良事業を知らない人がほとんどでした。国営事業が地域の農業の高度化を支えているだけでなく、耕土流出防止による羽地内海の保全にもつながっているとの説明に、一様に好意的な反応を得ることができました。それに併せて、事業完了後も、施設の機能診断や水を使

った営農の展開状況の確認(事後評価)などの形で、「やんばるの農業の振興」に国も関与し続けていることをアピールしました。また、まつり内で販売されていた特産品の中には、国営受益地内で生産されたパインアップル、シークワーサー、タンカンを使ったジュースも見られました。

水を使った農業の高度化が展開途上にある一方、施設の機能診断では近い将来に更新事業が必要との結果も明らかになっており、今後とも、地域での土地改良事業への関心を高める取組を継続していきたいと思います。

